

ご存じですか 作業環境測定士って？

皆さんは作業環境測定士という職業をご存じですか。有害な物質を取り扱っている事業所に赴き、作業環境測定を通じて環境改善をサポートする仕事です。対象は自動車や船舶などの大型製品から、ねじやマイクロチップなどの小型製品まで多種多様な生産現場で、基幹産業から最先端産業、工場から大学や研究機関まで、ありとあらゆる現場を測定しています。当会環境保健部では、年間1万1千件以上の事業所を訪ね、環境改善に携わってきました。今回は、そんな環境保健部の測定士が、「作業環境測定士は見た!～事件は現場で起きている～」と題し、現場の問題や対策、法改正などについて分かりやすくご紹介していきます。



シリーズの構成

- 第1回 後悔先に立たず 騒音性難聴を防げ**
・騒音の大きさと騒音性難聴になる目安は
- 第2回 事務所測定で新型コロナウイルス対策**
・二酸化炭素濃度と密について
- 第3回 ホルムアルデヒドでシックハウス症に？**
・解剖実習中にホルムアルデヒドを原因とするシックハウス症が発症か
- 第4回 増えています鉛中毒**
・高速道路の塗装工事で発生する鉛中毒
- 第5回 アスベスト問題はこれから**
・ずさんな調査や工事の横行、今後のアスベストの法改正について
- 第6回 意外と知らない保護具の使い方**
・保護マスクをつけているから安心は、ちょっと待った
- 第7回 世界初、日本でインジウムによる死亡事件**
・インジウムの分析は難しい
- 第8回 胆管がん問題から化学物質リスクアセスメントへ**
・覚えていますか、大阪の印刷工場の胆管がん問題
- 第9回 女性労働基準規則をご存知ですか**
・第3管理区分になると女性を働かせてはいけません!!
- 第10回 見落とししていませんか、法令揭示**
・労働基準監督官からよく受ける指導例のご紹介
- 第11回 膀胱がん問題について**
・オルトトリジンやMOCAを使用している作業場で発生した事例
- 第12回 ハイテク産業で起きている急性塵肺**
・粉じん作業場の粉じんは、意外と身体に付着している
- 第13回 何のための測定か**
・真冬に窓、扉を全開で測定
・測定士からのお願い

日本生産性本部が意識調査

働く人へのコロナの影響 勤め先の信頼、低下傾向

新型コロナウイルス感染症が、組織で働く人の意識に及ぼす影響を調べている日本生産性本部は、2回目の調査結果を公表しました。前回、5月の調査時に比べ、会社への信頼感が低下傾向にあることが分かりました。

緊急事態宣言解除の7月6～7日に、20歳以上の1100人を対象にインターネットで実施しました。その結果、安全・衛生への取り組みの一部を消費者が負担するセイフティ・チャージについて、容認が4割、容認しないは約6割でした。性年代でみると、容認意向が比較的多いのは男性の50～70代。中でも70代以上の68%が最多でした。逆に最も少ないのは女性の30代で、28・7%にとどまりました。

勤め先の信頼感については、「信頼していない」が5月調査の8・5%から11・7%に増加。「信頼している」と、「まずまず信頼している」の合計は、67・5%から61・4%に低下しました。健康に配慮しているかどうかの影響しているようです。

ワークシェアリングについては、「給与を減らしても雇用を維持すべきだ」とする是認派が40・5%で、「給与は減らさず、雇用を削減するべきだ」の否認派（19・5%）の2倍を占めました。

〔安全衛生web通信〕
8月5・20日号より